

# 常総市総合計画審議会会議録

と き 平成29年12月20日（水）  
午後1時30分から

と ころ 常総市役所議会棟2階大会議室

## 常総市総合計画審議会会議録

平成29年12月20日(水)午後1時30分から第5回常総市総合計画審議会を常総市役所議会棟2階大会議室に召集する。

### 会 議 日 程

- 1 開 会
- 2 あいさつ
- 3 議事録署名人の指名について
- 4 前回のおさらいとこれまでの経過について
- 5 議 事  
議案第1号 じょうそう未来創生プラン基本計画案について
- 6 そ の 他
- 7 閉 会

出席委員 倉持 守 水野 昇 岡野 一男 入江昭三郎 倉金 一廣 藤島 忠夫  
中山美代子 篠崎 孝之 海老原和子 五木田裕一 坂入 健 長岡 徳樹  
滝田美井子

欠席委員 塚本 治男 生井 邦彦 寺田富次郎 沼尻 保 尾上 孝俊

事務局 総務部長 荒木 悟志 行政経営課長 小林 寛明 行政経営課長補佐 渡邊 高之  
行政経営係 谷田部裕司

行政経営課長 本日は大変お忙しい中、常総市総合計画審議会にご出席いただき誠にありがとうございます。この審議会  
は、設置条例の第6条で「委員の半数以上が出席しなければ会議が成立しない」となっておりますが、本日、  
出席委員は18名中12名であり、会議は成立しております。会議に先立ちましてお手持ちの資料を確認さ  
せていただきます。まず、A4の縦（1）会議資料、（2）序章 前期基本計画 重点施策、そして、事前  
にお配りさせていただきました（3）じょうそう未来創生プラン前期基本計画案になります。不足ありません  
か。それでは、会議開催に先立ちまして、倉持会長よりごあいさつよろしくお願いたします。

会 長 皆さんこんにちは。何かとお忙しい中、委員の皆さま方には総合計画審議会にご出席いただきまして誠に  
ありがとうございます。まず、前回の審議会で答申しました「じょうそう未来創生プラン基本構想」につい  
ては、平成29年11月常総市議会定例会議において、全会一致で議決されましたのでご報告させていただきます。  
さて、本日の案件は、「じょうそう未来創生プラン基本計画案」についてということで、前回の（案）  
を基に、市民ワークショップ、庁内組織のワーキンググループ、専門部会及び策定委員会で検討されてきた  
（案）について、その中でも特に「前期基本計画 重点施策」についてご審議いただくこととなります。な  
お、今日の会議の結果、本日、事務局がお示しします基本計画（案）の内容で皆様から問題がないというこ

とでしたら、この計画（案）をもって答申に決定したいと考えておりますので、慎重なご審議をよろしくお願ひいたします。それではこの後、事務局から説明を求め、審議を進めてまいりますので、十分なご審議の程、よろしくお願ひいたします。

（滝田委員 午後1時32分入室）

行政経営課長

ありがとうございました。それでは、次第に従いまして会議を進めます。常総市総合計画審議会設置要綱第4条により、会議の議長は会長が務めるということになっております。倉持会長よろしくお願ひいたします。

会 長

それでは、次第3 議事録署名人の指名ですが、議長において指名してよろしいでしょうか。

（「異議なし」の声）

会 長

それでは、議事録署名人に、「倉金一廣委員」「藤島忠夫委員」を指名します。よろしくお願ひします。

会 長

次に、次第4 前回のおさらいとこれまでの経過について、事務局より説明を求めます。

行政経営係

（資料に基づき説明）

会 長

ただいま、事務局より説明をいただきました。この点について、ご質問がございましたらお願ひいたします。

(「質疑なし」)

会 長 質疑なしということで、次第5 議事に入ります。議案第1号「じょうそう未来創生プラン基本計画案」について、事務局から説明をお願いいたします。

行政経営課長補佐 (基本計画重点施策について、スクリーンで説明)

会 長 ただいま、事務局より説明がありましたが、基本構想から前期基本計画重点施策について、この点についてご質問ございましたらお願いします。

岡野委員 何事をやるにも財源ですよ。これから人口も減っていく。減っていくということは、当然、税収も減っていく。そういった点でなかなか事業展開していくには、財源の確保ということが大変重要になってくる。その具体的な施策というものは、どのように考えているのか。これをすべて網羅していったらかなりの額になります。我々は前期高齢者ですが、10年先には後期高齢者になります。そうすると医療も大事、介護も大事、その他に子どもたちのこともやっていかなければならない。また、楽しくやっていくためには公共施設を活用していくということですが、現在、公共施設が大変老朽化してきております。やることがたくさんある中で、事業展開していくには大変な財源が必要だと思いますが、その辺をどんなように考えているのか教えてください。

行政経営課長 今、岡野委員がおっしゃった財源についてですが、どこの自治体においても悩ましい課題でありまして、また、常総市におきましては、一昨年のおきましては、一昨年のおきましては、一昨年のおきましては、さらに厳しい状況は間違いないことです。具体的な財源計画については、この後の基本計画の第7章 財政運営の項目がございまして、この中でご説明させていただこうと思っておりますが、通常の経常経費もそうなんです、公共施設は非常に頭が痛いもので

ございまして、常総市内では144の公共施設がある中で、これをいかに運営していくかというのが大きな課題でございます。公共施設の問題につきましては、今年の3月に公共施設等総合管理計画というものを策定し、市内にあります公共施設全般が何年に整備されて、どのような時期に更新を図っていくかなどの計画を策定してございます。これは、現状の計画ですが、今後は、この公共施設等総合管理計画をもとに具体的にどのように維持管理、そして、市民に提供していくかというものを2年ぐらい先に計画を策定していくことになっていきます。行財政運営ということでは、第7章のところでご説明させていただきます。

水野委員

基本計画は7章からなっていますが、プランがないと執行部も困ると思いますが、私は合併当時から人口に絞って話をさせていただきますと、水海道というのは私も理解していませんでしたが、合併した時に常総線沿線の南側を活用していかないと、人口の少子高齢化の時代で流動化などあるが、水海道地区の流動化は止まらないのではないかと。細かく話すと長くなるので省きますが、私はいろいろな条件があると思い、これまで検討も進められてきたと思います。圏央道の件もご説明いただきましたが、これも展望するうえで重要だと思いますが、そこらも考えていかなければいけない必要があるということ、本当は提案したかったのですが、その意見は載っていなかったんですね。いろいろな事情があるかと思うのですが、そこらを活かさなかったら常総市の活性化の将来像の展望は開けないんじゃないかという風に私は考えてきました。そこらをどのように考えているのか教えていただきたい。

行政経営課長

その点については、この後、前期基本計画案の72ページの第5章のところ、土地利用と市街地整備の中の、下から8行目あたりに記述がありますが、ただいま、水野委員がご心配をいただきました水海道の駅南地区について、当時は水海道南地区ということで、古くはつくばみらい市、もとの谷和原村と旧水海道市で大規模な宅地開発を計画していた場所でございます。この場所は合併以前から宅地開発を含めた大規模商業施設を誘致する開発等も考えていましたが、なかなか土地高騰の問題もありまして開発ができなかった。ただし、あの地区につきましては、水海道時代から新たな複合的な開発地域として位置付けをしておりますの

で、現在、現計画でも都市核ゾーンとして位置付けはしております。文章の中にも水海道南地区における居住機能と公共施設等が一体となった複合的な市街地の形成を目指しますということで掲載させていただいています。なかなか、人口減少社会の中で、新たな大規模宅地開発というのは難しいところがあると思いますが、50haの土地でございますので、単発開発でなく地域全体のまちづくりのあり方ということを検討しないとなかなか開発ができないということでございますので、そういったことで目指していきたいと考えておりますので、よろしく願いいたします。

水野委員

私が個人的に考えるには、農用地、都市計画してありますから、今、アグリサイエンスバレーなどと合わせて、そういうところでは県内では、あちこち除外して工業団地などやっているでしょ。水海道地区では、それができていないんですね。はっきり言って、政治力を使って、工業団地の誘致などやっているところがある。それが遅れているという風に私は見えています。そこが欠けているのかなと極端な話ですが私はみえています。だから、これからの少子高齢化と合わせて、水害の問題もありますけれども、それから人口が流出しているということは、きっと、石下と比較した時に、水海道の方が流出していると私は思っています。そこらも考えて、将来の常総市として描くのであれば、細かいことは言いたいこともありますが、具体的にもっと進めるような施策も必要ではないかと思ったのでお聞きしました。また、旧石下町と水海道市で一国二制度という中で、どういう施策をもって常総市の将来の展望を描いていくのかということですが、みらい創生プランと合わせて2つの枠組みの制度があるわけなので、石下は都市計画がない。多少ありますけれども、水海道は半強制的にさせられていますので、そこらも時代の流れの中で私は変更などあれば、できるのではないかというのが私の考えです。関連してもう一つお願いしたいのは合併するときに当時の町長に石下町は現状のままということで申し込んだのですが、水海道地区と合併してからは5年の都市計画の見直しでも相談なしに一部変更してしまった。そういうことをやっていたのではだめですから、活性化の一助を摘み取るようなことになります。時代時代に即応した施策を具体的にきちんと決めていかないと絵に描いた餅になると思う。私は具体的に将来の展望を描くときは、目標をきめてやっていかないといけないと、

私は考えています。やれば皆さん、執行部も知恵があるのですから、しっかりした知恵者がいるのですから、できないのは努力が足りないからやれないのだと思っています。私だって一人で30社の企業を誘致しているわけなので、4,000人が働く企業なので、一生懸命やれば執行部がやる気になればできることが多々あるというのが私の考えです。そういうことも併せてお願いしたい。市長だけでないです。職員の皆さんも知恵を持っている皆さんですから、だいたいのことはできる。他の市町村よりも先行した施策も組み合わせてもらいたいというのが私の個人的な願望です。そういうことも併せて1つお願いします。

会 長 続きます。基本計画の内容について、事務局から説明をお願いいたします。

行政経営課長補佐 (基本計画の内容について、スクリーンで説明)

会 長 ただいま、事務局より説明がありましたが、ご意見のある方お願いします。

五木田委員 各分野でアンケートをおとりになって満足度が書かれているようなんですけども、ざっくりみますと、20数パーセントとか、そのくらいの数値がでているところで、一部、極端に低いものがあるんですね。例えば、73ページの土地利用と市街地整備で7.9%、その次の住宅・宅地のところで8.8%、87ページ工業の振興のところで6.0%。これはどういう設問でおこなったものなのでしょうか。

行政経営係 満足度に対する設問ですが、例えば、行政の分野について、あなたの満足度はいかがですか？という設問で、市の行財政改革の取り組みについて、近隣市町との連携強化についてなど、それぞれの分野における各項目を挙げております。それについて満足から不満足まで5段階で評価選択していただけるようなアンケート票になっております。5段階というのは、満足、やや満足、どちらともいえない、やや不満、不満というこの5つの中から選択していただくようなアンケートとなっております。

(長岡委員 午後 2 時 25 分退出)

五木田委員        そうしますと、あくまでもアンケートにご協力いただいた市民の皆さんの主観に基づく数字という理解でよろしいでしょうか。

行政経営係        そのとおりです。

五木田委員        相当皆さん満足をしていない、厳しい結果になっている。例えば、この数字があって、この数字とこの数字がこうだから、この%になりましたというのであれば、このことを改善していけばよいと思いますが、皆さんの主観をもって、満足をされていないということであれば、根本的なところから見直していかざるを得ないという非常に厳しい結果だと私は受け止めております。したがって、ざっとみますと、20 何%、30 何%のところであれば、10 人いれば 3 人ないし 4 人くらいの方は OK ということでいいだろう。これが、10% 台となりますと、一人しか満足していないのかよという風に理解できるんですね。そうしますと、やはり抜本的に行っている施策の内容を見直していく必要というのが残念ながらあるのかもしれない。私はそのように理解します。

入江委員        18 ページに出ている都市間交流について、前にも発言したような気がするのですが、今、五木田委員が話したように、この結果は、外国籍の方も入っている回答なのかどうか。現況の 2017 年度は 8.7% で目標は 22 年に 13.7% にするということだが、この 8.7% には外国籍の方も入っているのかなということが質問です。それから、重点施策 5 ページの姉妹都市と友好都市の提携の推進ということで市の方では構想ができていますのかどうか。例えば、どこの国と結ぶのかということ。境町の方でアルゼンチンと友好都市を結んでいるようだが、そういうことを具体的に考えているのか、学校と学校が行き来することになるのかななどの質問も入

っています。

行政経営課長

先に、国際交流活動に対する市民の満足度のアンケート結果ですが、こちらは住民票に搭載されている方なので、外国人も入っているということでお考えいただければと思います。

市長公室長

友好都市、姉妹都市ですが、皆さんご承知のとおり、現在、常総市で友好都市、姉妹都市を締結している都市はございません。そういう中で8月の議会で、友好都市、姉妹都市に関する条例を制定したところをごさいます、友好都市、姉妹都市は、長い間、文化ですとか産業ですとかそういうもののつながりがあって、そこではじめて姉妹都市締結ということになるわけですが、現在、常総市では10月1日に姫路市で、千姫フォーラムというのが開催されましてこちらは、千姫つながりということで、常総市、姫路市、桑名市ですが、こちらの3市長が出席をしまして意見交換を行いました。その際にも友好都市、姉妹都市について、今後、前向きに取り組んでいきたいと思いますというので、話し合いもされていますので、まずは、千姫つながりの3市で締結していこうかなという動きをしています。その他、国体で、その次の年にはオリンピック、パラリンピックが開催されますので、多くの方が常総市にも訪れるということになりますので、そういう中で、キャンプの誘致ですとか、練習場の提供とかそういう中で交流が持てれば、その中で友好都市、姉妹都市を締結していければと考えているところです。

会 長

それでは、次第6 その他に入ります。ご意見ございましたら、お願いいたします。

坂入委員

いろいろデータを揃えて、現況の2017年、目標の2022年で全て%が上がるようにやっていますが、あまり意味のない%があがっているような感じがします。努力すれば、一生懸命やれば%が上がるということがあるのかもしれませんが、例えば、76ページの斎場・霊園のところで、満足とやや満足の割合を5%あげるというためには、具体的に何をやるのか、あまり意味が無いように思える。斎場・霊園に関していう

と、日本全国で問題になっているのは、今ある施設では絶対に足りなくなると、都内や横浜のあたりでは、お亡くなりになってから火葬場に行くのに最低でも1週間かかる。待ちなんです。そういうのが入っていないで、ただ単に希望的観測で5%上げます、10%上げますというのは、全部見ているわけではありませんが、お金をつけて、例えば、上水道の整備ですとか、下水道の整備ですとか、道路の整備率ですとか、というのは、お金をかけていけば確実に伸びていきますけれども、あまり努力の手法のないものを無理やり%を掲げているように思いますが、どうでしょうか。

行政経営課長

現況の数値というのは、説明したとおり、ざっぱくアンケートに基づくもので、例えば、行財政運営という視点で、市民に率直にどのように感じますか？という設問です。ですから、先ほど、坂入委員からご指摘いただきました、斎場・霊園につきましても、老朽化して、整備してよ、きれいにしてよという要望が非常に多い中で、やはりその辺を推進したいという意味での目標値ということです。現況に対して一律5%上昇の目標値を5年後に設定してございます。ここに掲げている施策について、具体的にどういった事業を行っていくのかというのが今後の課題なのかなということで、一律5%の目標を示させていただいている数値でございます。

篠崎委員

15ページの真ん中よりも少し下ですけれども、基本方針の中に自治区や市民活動など多様な組織の育成と活動を支援し、とありますが、具体的にこの支援とは、何をどんな形で支援してくれるのか説明をいただきたい。

市民生活部長

自治区そのものが組織化されておまして、総会やその間でもって、区長さんや班長さんの区内の運営に対しての助言、アドバイスはもとより、今、現実問題としてマイナンバー関係もございますので、よりよく区の皆さんが運営をするのに、運営しやすい今後の方向性なんかも、今後、アドバイスしていけたらいいという風に考えております。その他、細かい諸々の問題点は逐一ご相談があった時には必ず対応し、何らかの

解決策を導いていけるような体制づくりを部としては考えております。それが、ひいては市全体の方向性として、自治区とのかかわりを持っていけたらと考えております。

篠崎委員 金銭的な援助というのは、具体的には考えていないのですか。

市民生活部長 現在は、今の金額でお願いしたいというのが、私の考えでございます。その意見も頂戴しておりますが、本来であれば、自治区の皆さん方がどのように改善していったらいいかなということを醸成していただきたいというのが本心でございます。予算的なこととお話して申し訳ありませんが、現状維持でお願いしたいと考えております。

篠崎委員 私は自治区の方で関係していますが、空き家対策協議会というものがあり、もちろん、いろいろな部や課があるわけですが、空き家対策の調査した結果が5年前のものであった。今の時代に5年もたつとそれこそ、地域によっては大きな変化がおきると思う。一人住まい、二人住まいの人が相当いる。あるいは、だれも住まなくなってしまうという状況、現象がおきているということで、せっかく、自治区があるのですから、自治区を利用して調査をやってくださいとお願いしたのですけれども、ということで、やはりタテ、ヨコのつながりをもっと持った方がよいのかなと思います。いろいろな部や課があり分野も違うと思いますが、共有できるところは共有し合って、経費の節減につながればよいと思うし、やるからには予算がかかるものですから、何年も補助金がゼロの状態が続いていまして、以前、もらった予算を取り崩している状況でありますから、仕事もお願いする、予算も計上するという形をとっていただきたい。

滝田委員 39 ページの学校教育のところ、課題の施策の方向で、就学前教育の充実で、①市立幼稚園の統合、再編を推進しますとありますが、平成 29 年 12 月現段階で、推進の進捗状況をお聞かせいただきたい。それと、その満足度が学校教育に関する市民満足度が 28.1%で大体 3 割の方が満足していますよね。それに対しての

統合，再編を推進しますが5%。28.1%は高いように思いますが，その辺も合わせてお願いします。

教育部長           市立幼稚園の統合につきましては，教育委員会としましては，石下東部地区に1園，西部地区に1園ということで，公立幼稚園を残す形で考えております。

滝田委員           今のことは，常総市としてのことですか。教育委員会としてのことですか？

藤島委員           今のご質問は，29年現在で，この市立幼稚園の統合再編はどこまで進んでいますか？ということであれば，現在は，進んでいないということですね。今後は，まだ，一案であって今後どういう形で進めていくかは5年後までに統廃合を検討していきます，ということが市の考え方だと思うのですが。

滝田委員           もう一つの質問は，28.1%の満足度の中に，統廃合の要因が入っているのかどうか。市民の中には，統合再編を支持しない人もいると思う。

行政経営課長       28.1%の中には，先ほどの五木田委員の質問と同じで，学校教育について，どのように感じているかということ。ですから，滝田委員がおっしゃるように市立幼稚園の統合，再編という個別的なアンケートはとっていないので，これは，小中学校の教育についてというイメージで捉えられている方がおおいのかなと思います。私も，この部分で多少疑問に感じているところがありまして，学校教育の分野ですので，市立幼稚園の部分については，前章の28ページの少子化対策と子育て支援の方に幼稚園関係の施策や考え方を移行しようかなと考えております。というのは，こちらに保育所の話が出ていますが，幼稚園と保育所というのは，確かに，文部科学省と厚生労働省と違うところですが，市民の方にとっては子育て支援ということでは同じだと思っていますので，こちらに内容を移させていただこうかなと考えております。滝田委員はご専門なので，ご心配されたところがあるのかもしれませんが，市立幼稚園の統合ということでのアンケートは

していませんので、こちらの主に小中学校の教育のことについて、市民は率直にどう感じていますか、という質問に対しての答えが 28.1%ということですのでよろしく願いいたします。

滝田委員 東部が1つ、西部が1つということは議会の承認は得ているということですか。

教育部長 承認を得ているのではなくて、そういう計画で今はいる状況です。いくつか選択肢は考えておりますけれども、検討中ということで決定はなにもされていません。

会 長 捕捉しますと、教育部門からは議会の方にはそのような話は上がってきておらず、教育部門の方でこれからの検討課題ということでやっていることです。まだ、議案としては上がっていない状況で検討中ということでご理解いただければと思います。

水野委員 先ほどの意見と重複するところがありますが、土地利用、市街地の整備ということでマスタープランの見直しをしますと明言していますが、これは、どういうことを考えているのか聞かせてください。

都市建設部長 都市計画マスタープランにつきましては、計画的に社会状況等に合わせて見直しをすることになっておりますので、現在、作成したものが平成22年に策定してございます。前期基本計画期間中に10年以上経過いたしますので、こういった社会状況にも変化が生じておりますので、来年度以降、都市計画マスタープランの方は見直していきたいと考えております。

水野委員 都市計画マスタープランの見直しは、当然やらないといけない時代になってきていると思っておりますけれども、見直しをやるときは、今までの基準を守って、あとは、地元の地権者の意見も集約してやってもらうように要望しておきたいと思っております。そうでないと、いくら優秀な執行部でも、現実と実態は違うところがありま

すから、考えておいていただきたい。

海老原委員

男女共同参画の件で、今後の要望なんですけれども、本年度は水海道一高とか二高などで、デートDV防止の講演会などを行っておりますが、そういった出向いて生徒たちに教育するようなそういう機会も計画の中にどんどん入れ込んでいただければと思いますのでよろしく願いいたします。

岡野委員

計画に盛り込んでいただきたい要望ですが、5ページの重点施策の内容の中で、交流人口の拡大ということがございます。この中で、多文化共生ということがあります。先ほど、姉妹都市の話もありましたが、ここで言っている多文化とは外国籍の方を言っていると思うのですよね。当市の住基に載っている外国籍の方は7%ぐらいの方がいるかと思います。そういう方を対象にしているように感じていますが、多文化というのは、言い換えると異文化ですよ。今の若い人は昔からある日本の文化は、異文化に見えていると思います。ですから日本の伝統文化とか、そういうものも多文化共生の中に入れていただければ、いろいろな文化が存在していると思う。そういうことで、私どもの交流人口が増えていくことが一番良いことであります。若い方々から、昔の文化は異文化に見えるかもしれないし、我々からも若い方々は異文化に見える部分もある。そういう交流というものも当然必要になってくるのかなと思います。ですから、こういった多文化共生の中にはいろいろな伝統文化とかいうものも含めていただいてそれを育てるということも必要なのではないかなと思います。先日、TVで徳島県の和楽器のバンドがやっていたが、県が主催して、若い方々が昔からの伝統の和楽器を使いましてバンドを作ったということで、いろいろなところで組み込まれてやっている。当市も千姫さまという歴史の町、文化の町ということでやっておりますが、そういう新しいものも、今後、組み込んでいただければなと感じております。

行政経営課長

多文化との交流は5ページに書いてあるという話ですが、常総市の地域文化という面では、47ページに地域文化を守っていきましょう。ということで、掲載させていただいておりますがこれが本市の文化を守って

いく中で、第1章の外国文化との交流を図っていきましょうということで書かせていただいておりますので、今回は、別れてしまっはいるのですが、地域文化、生涯学習のところでフォローさせていただいているところです。

岡野委員      私も47ページは見させていただいていますが、これは、今ある歴史のある常総、文化のある常総といううたい文句なんですけれども、これではなかなか一歩先に行かない。けれども若い人たちが一歩踏み込んでくれるものがあるんですよね。そういうものを新たに作り出す、文化をつくっていくということで、やったらどうですか、ということなんです。これだと、今やっていることを網羅している感じにしか見受けられない。

会 長      活発なご意見ありがとうございます。この審議会の案件としまして、冒頭に申し上げましたけれども、本計画の案の内容が提案しました内容でよいかどうかということをお皆さんに確認いただきたいと思いますので、この計画の案でよければ、答申ということでさせていただきたいと思っておりますので、この計画でいかがでしょうか。それでは、答申案の検討に入りたいと思っておりますので、案の準備がございますので、5分間の休憩をとらせていただきます。

(午後2時55分休憩)

(午後3時2分再開)

会 長      会議を再開します。先ほど、答申ということで検討に入りたいということで、私の方からお話を進めましたけれども、事務局と再度検討しまして、まだ、皆さんから意見を頂戴した方がよいかということ、この答申のほうは、次回ということでお願いしたいと思います。そのため、ご意見を頂戴いただければと思

います。

入江委員

40 ページです。施策の方向で例えば、学校教育の充実で①から⑦までございますが、この並びは重要な項目が一番上にあるという意味ですか。ただ単に順序をつけただけなのか。2つ目は、防災教育という言葉が盛んに出されています。この防災教育という言葉はいつ頃から常総市では、本気になって言葉が使われ始めてきたのか。私が現職のころは、このような言葉はなかった。石下中学校あたりでは、一生懸命に防災教育は口だけでなく、子どもたちがテントを張ってまでも行っている。常総市の防災教育は素晴らしいと思いますので、そのあたりも教えてください。もう一つ、健全な児童生徒のことで、スクールカウンセラーと教育相談員の差というのはどのようなことなのでしょう。部活動などの充実は、ご存知と思いますが、教職員の負担軽減の中で中学校の部活動の取り組みで、東京あたりでは外部の方に指導をお願いしているが、常総市でもそういうことを考えているのでしょうか。学校の充実ということでは、小さいころから本を読ませるということは国語力をつけるのに非常に素晴らしいと思う。最後に常総市では年間どのくらい図書を購入して、また、市の図書館だけでなく各学校にも行っているのか、わかりませんので、もしおわかりでしたら教えていただければと思います。

行政経営課長

計画の順番ですが、重要度ということではないことをご理解いただければと思います。防災教育ですが、震災以降実施しているということもございます。補助金等をいただいています。実際に水害後に各小学校でYES、NO形式のクロスロードという、災害に対して子供たちが自分たちの想いで判断していくシミュレーションがあるのですが、9月1日に一斉に行っており、子どもたちから父兄の方々に波及していく効果もあり、評判も得ています。

教育部長

スクールカウンセラーと教育相談員ですが、スクールカウンセラーは適応指導教室、かしの木スクールでの相談業務をしております。教育相談員さんは不登校児童生徒の学習指導などをしていただいております。

心のケアなどを行っているスクールカウンセラーとは教育相談員の業務内容は異なります。また、部活動の充実ですが、先ほど東京都の話がされていましたが、茨城県でもそういった制度があって現在 12 人くらいの外部指導員の人がいるようですが、なかなか県の方に申請をして指導員を回してもらうことになると思いますが、現在のところは 12 名なので常総市の方までは、現状では難しいのかなと思います。市の図書館では、年間の予算で図書購入費として 800 万円を持っています。そのほか、学校でも 500~600 万の予算があって、それを 19 校で学校の児童生徒数だったり、学校の希望によって平均を出して、新規の図書を購入しております。その他、図書館の支援事業がありまして、今年は、大生小、水海道西中、水海道中で 500 冊、900 冊、900 冊を 4 年間その学校に置いて 4 年経過するとその本を別の学校に回していくといった巡回図書のようなものを幼稚園を含めて実施しております。

倉金委員

83 ページの農業基盤の整備について、質問しますが、常総市の農業については、水害によって水田の耕作意欲が減少しまして、耕作放棄地の心配があるのですが、もう一つ、認定農業者の数も現在 223 人の登録がされているようですが、この先減少になってしまうのかなという感じもしております。現在も人・農地プランを利用して耕作を拡大して、意欲ある農家の育成には役立っていると思います。もう一つ、畑作で茨城県は農業生産額が北海道について第 2 位となっております。西部地帯においては、野菜の生産が盛んであります。特に大規模な農家が持続的に増加してきてまして、若い人たちにこれだけ儲かるんだぞというような姿勢を見せながら頑張っている状態でございます。常総市におきましても、特産物があり、きゅうり、白菜、メロン、ズッキーニなどたくさん農産物があるのですが、他市町村を見ても、トップセールスというのがあります。現市長になってからズッキーニなどにおいては、トップセールスで動き始めて感謝していますが、より以上に常総市の農産物の販売促進にトップセールスを活用していただければ、我々生産者にとっても心強いことになるかと思っておりますので、我々が要請した時に参加していただければと思います。

経済環境部長

農地の集積でございますが、ご案内のとおり、農地中間管理機構といったものを活用しながら規模の拡大

を図って農業基盤の強化を進めているところでございまして、農家としては、なかなか農地中間管理機構に提供いただけないということがありますが、今後も補助制度なども含め、説明し参加していただけるように進めてまいりたいと思います。合わせて耕作放棄地の話もございましたが、こちらも倉金委員さんをご存知のとおり8月から農地最適化利用推進員というような新しい制度もできてございますので、市外の方の交流など市民農園などありますので、そのような面からも利活用を進めてまいりたいと考えております。今年、ズッキーニなど市長自らTXの秋葉原あるいは県庁の方に出向きPRに行っていたこともございます。市長も営業本部長という言い方もしておりますので、ズッキーニに限らずこういった機会をとらえてPRに努めてまいりたいと思います。

会 長

皆さまには慎重審議いただきました。これで、先ほど答申ということを申し上げましたが、答申案の検討は次回に持ち越しまして、1月に皆さまに検討いただき、決定したいと思います。また、次回よろしく願いいたします。

行政経営課長

今日、いただきました内容を、事務局にて整理いたしまして、回答書的なものをつくり、次回に配りご説明させていただきます。その後、私たち事務局の方で答申案を作成いたしまして、次回、まず答申案の方をご審議いただいて、その後、答申といったスケジュールで進めたいと思っておりますので、よろしく願いいたします。次回は1月15日（月）午後1時30分から、同じくこの議会棟2階の大会議室で開催ということで、考えております。以上をもちまして、本日の審議会を終了したいと思います。どうもありがとうございました。

（午後3時15分 会議終了）

上記の議事の正確なることを証するためここに署名する。

平成30年1月15日

常総市総合計画審議会

会 長 倉持 守

署名人 倉金 一廣

署名人 藤島 忠夫